

令和 5 年 度

## 中学校外国語科における実践研究

—諸調査結果等を活用し、課題を解決するための効果的な指導法についての提案—

下小路中学校	沼澤博子
河南中学校	佐々木涼
城西中学校	山岸瑞穂
北松園中学校	菊池敬仁
学校教育課指導主事	山内浩

令和6年1月  
盛岡市教育研究所

# 目次

I	研究主題	1
II	令和4・5年度における諸調査の結果概要と分析	1
III	研究目的	4
IV	研究の組織	4
V	研究の内容と方法	4
VI	研究の実際	4
	【提案①】	7
	【提案②】	9
	【提案③】	13
	【提案④】	15
	【提案⑤】	17
VII	研究のまとめ	20

## I 研究主題

中学校英語科における実践研究 —諸調査結果等を活用し、課題を解決するための効果的な指導法についての提案—
---

## II 令和4・5年度における諸調査の結果概要と分析

### (1) 全国標準学力検査（NRT）の結果

本調査は、4月に2学年で実施した。出題内容は1学年の学習内容である。

#### 令和5年度

正答率	盛岡市	全国	全国比
大領域			
聞くこと	57.4	59.2	97
話すこと	56.2	57.6	98
読むこと	56.7	57.9	98
書くこと	43.3	47.3	93

#### 令和4年度

正答率	盛岡市	全国	全国比
大領域			
聞くこと	56.9	59.4	96
話すこと	56.3	57.6	98
読むこと	56.4	58.0	97
書くこと	43.8	46.7	94

#### 【大領域別集計結果】

大領域別の平均正答率は、全国と比較すると、「聞くこと」で1.8～2.5ポイント、「話すこと」で1.3～1.4ポイント、「読むこと」で1.2～1.6ポイント、「書くこと」で2.9～4.0ポイント下回った。

また、令和5年度の中領域別では、特に「まとまりのある英語を聞き取る」「テーマに沿ってスピーチをする」「適切な表現を用いて英語を書く」が、全国通過率（正答率）を10ポイント以上下回っている。

R5 正答率	盛岡市	全国	全国比
中領域			
語や文を正確に聞き取る	53.4	54.5	98
質問やアナウンスを聞き、応じる	59.4	60.6	98
まとまりのある英語を聞き取る	57.8	60.8	95
正しく話したり発表したりする	45.6	44.0	104
考えや気持ちを正しく伝える	66.5	66.4	100
テーマに沿ってスピーチをする	48.5	54.4	89
英文を正しく読み取る	69.2	71.1	97
必要な情報を判断し、読み取る	53.9	54.4	99
長文の概要や要点を読み取る	46.8	47.8	98
基本的な単語や英文を書く	50.5	52.6	96
適切な表現を用いて英語を書く	33.8	39.5	86

#### 【中領域別集計結果】

NRTが、主に「知識・技能」を測る指標であることから、基礎的・基本的な知識（中学校で扱われる疑問詞や代名詞、時制等の文法事項）が定着していないことがわかる。

大領域の改善に向けては、「聞くこと」では目的・場面・状況に応じて聞き取ることや、概要や要点を聞き取ることの経験を積むこと、「話すこと」では、問題文を「読むこと」の力や、その内容を理解するための基礎的・基本的な知識を身に付けること、「読むこと」では英語と日本語の語順の違いを意識させること、「書くこと」では音と文字をつなげる手立てを講じ、基本的な語彙（綴り、意味）を定着させることが必要である。

また、小学校からの学習の接続を意識し

て、「聞くこと」や「話すこと」など音声面を大切にした指導を丁寧に行っている一方、いつまでも「読むこと」や「書くこと」へ本格的に移行できていない（導入が遅い）ため、定着も遅れていることが考えられる。

	英語	国語	数学
標準偏差	10.4	9.6	10.6

【標準偏差の比較】

得点の散らばりを表す標準偏差では、全国平均値の10.0を上回り、国語と比較しても数値が大きい。学習内容の定着具合は、ばらつきが広がっていることがうかがえる。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果

本調査は、令和5年4月に3学年で実施した。出題内容は2学年までの学習内容である。

領域	盛岡市	全国	全国比
全体(聞・読・書)	40.0	45.6	87.7
聞くこと	53.6	58.4	91.7
読むこと	46.0	51.2	89.8
話すこと	9.0	12.4	72.5
書くこと	16.1	23.4	68.8
知識・技能(聞・読・書)	44.3	51.5	86.0
思考・判断・表現(聞・読・書)	35.0	38.8	90.2

【領域別・観点別集計結果】

領域別の平均正答率は、全国と比較すると、全体で5.6ポイント、領域別では、「聞くこと」で4.8ポイント、「読むこと」で5.2ポイント、「書くこと」で7.3ポイント下回っている。また、観点別では、「知識・技能」で7.2ポイント、「思考・判断・表現」で3.8

ポイント下回っている。

小問内容	盛岡市	全国	無答率
ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	70.4	79.0	0.2
図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	50.1	59.8	0.4
ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。	13.6	19.5	36.7
動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える。	11.4	19.0	22.7

【小問別正答率・無答率】

(全国比を大きく下回っているもの・無答率の高いもの)

設問別では、「ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」「図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」で、全国平均正答率を大きく下回り、また無回答率が全国と比べて高かった。

無回答率についての本市の特徴としては、「読んだことをもとに自分の考えを書く」などの技能統合的な力が求められる問題で高い。

領域別に見ると、「聞くこと」においては、一度で内容を正確に聞き取ることや目的に応じて必要な情報を聞き取ること、「読むこと」においては、文と文の関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉えることに課題がみられる。

「話すこと」においては、全体的に正答

率が低く、全5問のうち1つも正解できなかった生徒が7割近くいる結果となった。基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において実際に活用できる技能を身に付けることが求められている。

学校の授業改善においては、基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な定着を実現する指導を一層充実させること、目的や場面、状況などに応じて言語を運用する「思考力・判断力・表現力等」を育成すること、更に両者のバランスの取れた指導が求められる。

一方で、生徒質問紙調査からは、次のような結果も見られた。数値は、肯定的回答（「当てはまる」及び「どちらかといえば当てはまる」の合計）である。

肯定的回答 小問内容	盛岡市	全国
英語の勉強は好きですか	54.0	51.9
英語の勉強は大切だと思いますか	87.1	88.0
英語の授業の内容はよく分かりますか	62.8	63.9
英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか	86.2	87.5

「英語が好き」と答えたのが全国を上回っているほか、英語を学んだり、使ったりすることの有用性を意識している生徒が多いことも分かる。この学習意欲の高さを、いかに英語力の向上につなげていくかが課題である。

### (3) 英検 IBA の結果

本調査は、10月に2学年で実施した。公益財団法人日本英語検定協会が提供する「英検 IBA」のテストD（英検3～5級レ

ベル）を活用し、4技能のうち、「Listening」「Reading」についての英語力を調査する。

平均正答率 領域等	2023年 (令和5年度)	2022年 (令和4年度)
平均スコア	670.0	665.0
語彙・熟語・文法	68.3	68.0
読解	45.8	54.3
リスニング	63.0	62.9

平均正答率 領域等	2021年 (令和3年度)	2020年 (令和2年度)
平均スコア	677.6	702.9
語彙・熟語・文法	71.8	75.0
読解	56.6	63.4
リスニング	64.0	68.8

### 【領域別・観点別集計結果】

平均スコアが、2020年から2年連続で低下、特に、2021年から2022年にかけては12.6ポイント下がっている。2023年には、5ポイント上昇した。

領域別の結果においても2021年度と比較し、全ての領域で正答率が低下している。2023年度は、「語彙・熟語・文法」「リスニング」で少し上がった反面、「読解」が、8.5ポイント低下している。

単元の指導における「言語活動」と「言語材料の理解や練習のための指導」のバランスを図ることが求められる。

以上の令和4・5年度における中学校英語の諸調査の結果から、明らかになった課題を解決するための効果的な指導法について、授業改善の視点から探っていくこととした。

### Ⅲ 研究目的

令和4及び5年度における諸調査の結果から明らかになった課題を解決するための授業について、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の言語活動を通じた授業づくり、授業改善実践例を示すことにより、盛岡市の中学校英語科における学力向上を目指す。

### Ⅳ 研究の組織

役 職	氏名	所属
班 長	佐々木 涼	河 南中学校
副班長	山岸 瑞穂	城 西中学校
班 員	沼澤 博子	下小路中学校
班 員	菊池 敬仁	北松園中学校

### Ⅴ 研究内容と方法

#### 1 研究の内容

- (1) 外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導について
- (2) 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した指導計画と授業づくりについて

#### 2 研究の方法

##### (1) 理論研究

- ア 外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導について
- イ 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した指導計画と授業づくりについて

##### (2) 実践研究

- ア 令和4・5年度における諸調査の結果についての分析
- イ 令和4・5年度における諸調査の結果から明らかになった課題に関わる指導の手立て及び単元デザインについての協議
- ウ 協議に基づく授業実践
- エ 授業実践の提案と考察

### Ⅵ 研究の実際

#### 1 理論研究

- (1) 外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導について

中学校学習指導要領解説【外国語編】には、外国語科の目標として次の通り示されている。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考え等を理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

外国語の学習において、語彙や文法等の個別の知識は、それらが単独でどれだけ身に付いたかではなく、実際のコミュニケーションの中において運用されるものである。さらに、目的・場面・状況に応じて、繰り返し思考・判断・表現されることを通じて、語彙や文法等は定着が図られる。目標に示されているとおり、「言語活動」の中で、実際に使いながら英語を身に付けていくのである。

【授業改善に向けて】

「言語活動を通して」外国語活動・外国語の目標、領域別の目標の達成に向けて指導すること

【今年度の重点】 1

○言語活動を通して、児童生徒が「伝えたい内容」と「内容を表すための英語表現」の両方について思考・判断するなど、使いながら言語材料等の定着が図られるよう工夫すること

【令和5年度学校教育指導指針 各教科等の指導の要点 外国語活動・外国語より】

また、下図は、主に中学校外国語科における「言語活動」を表したものであるが、主に小学校外国語活動・外国語科においては、「言語活動」は「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」と定義されている。

知識及び技能を活用し  
思考力、判断力、表現力を育成するために取り  
組ませるもの



【中学校外国語科における「言語活動」】

語彙や文法を身に付けてから表現する、という今までの指導観から脱却し、まずコミュニケーションから入り、その中で気づきや必要性を感じながら知識・技能を習得させていくことが求められている。

その際、留意しなければならないことは、授業の中で、生徒が英語を使っているからと言って、必ずしもそれが「言語活動」ではない、ということである。「言語活動」は、言語材料について理解したり、練習したりするための指導とは区別されるもの

である。一方で、言語材料の理解や定着のための練習を必要に応じて行うことも必要であり、その際も、先に練習ありきではなく、言語活動を行う中で、練習の必然性を感じさせながら行うことが必要である。

(2) 単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した指導計画と授業づくりについて

令和5年度学校教育指導指針では、授業改善の方向性として、次のように示されている。

【授業改善に向けて】

「内容のまとまりごとの評価規準」を設定し、「指導と評価の一体化」を一層推進すること

【今年度の重点】 2

○単元の評価規準に基づき、バックワード・デザインによる指導計画とすること

○予め設定した評価場面や評価方法に基づき、児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かす評価を行うこと

【令和5年度学校教育指導指針 各教科等の指導の要点 外国語活動・外国語より】

従来のように教科書をページ順に扱っていくイメージではなく、「～することができる」という生徒の具体的な姿を思い描きながら、単元のゴールから逆算的に単元を構成することが「バックワード・デザイン」である。生徒が単元や内容のまとまりの中で、「英語を用いて何ができるようになる」のか、あらかじめ明らかにした上で、単元や内容のまとまり毎の指導と評価の計画を作成し、授業を行うことにより、授業のねらいが明確になり、そして適切な指導へとつながる。

また、中学校学習指導要領解説【外国

語編】には、外国語教育における学習過程として次の通り示されている。

- ① 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自らの学習のまとめと振り返りを行う。

このようなステップを踏み、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり、伝え合ったりする授業を行うことにより、外国語科における「思考力、判断力、表現力等」を養うことができる。

同時に、主体的に学習に取り組む態度、外国語科においては「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」も、このような学習過程の中で、具体的なコミュニケーション場面が設定され、生徒が、自ら進んで、よりよく相手に伝えるための練習や調整を行うことにより育まれる。

このように、資質・能力をバランスよく、総合的に育成していくという観点からも、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら指導と評価を行うこと、そのための単元指導（評価）計画を作成することが必要である。

## 2 実践研究

- (1) 令和4・5年度における諸調査の結果についての分析と理論研究を踏まえて、「言語活動」の中で実際に活用しながら知識や技能を習得していくという視点から、5領域それぞれの授業実践を行い、授業改善例を提案することとし、次のとおり役割分担を行った。

領域	研究員
聞くこと	全研究員
読むこと	山岸研究員（城西中）
話すこと [やり取り]	佐々木研究員（河南中）
話すこと [発表]	沼澤研究員（下小路中）
書くこと	菊池研究員（北松園中）

日常の授業において、各研究員が実践を行い、8月から11月までに4回開催された班会議において、その実践を通しての成果や課題を共有、協議し、各研究員が次回の実践につなげた。

- (2) 理論研究を踏まえて、各研究員による領域毎の授業実践にあたっては、単元や題材など内容や時間のまとまりを意識した指導計画のもとに行われることを確認した。
- (3) 授業実践提案

本研究を通しての授業改善のための実践提案を次のページより示す。

なお、成果及び課題、今後の改善点等については、20ページに記載する。

「まとまりのある英語を聞き取ること」「語や文を正確に聞き取ること」  
改善のための授業アイデア例【ICT活用】

①

聞く  
こと

◎学習指導要領目標 (1) 聞くこと

ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。

イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。

○学習指導要領内容・言語活動の例 イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。

(エ) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。

(単元名) Power-Up 5 インタビューを聞こう (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂) 他  
各 PROGRAM の Scenes や Think で指導することも可

Pre-Listening

- ・どのような内容を聞き取るか、生徒に準備をさせる。
- ・教師と生徒のやり取りを通して確認する。
- ・イラストを見て、イメージさせる。
- ・違いに着目させる。予想させる。



When is your birthday?

My birthday is January 26<sup>th</sup>.

Oh, my birthday is January, too.  
How about you, ○○さん?

My birthday is ….

OK, I see. Thank you.  
By the way, I have a quiz.  
What does the date mean, September 3<sup>rd</sup>?



Listening Script

Liz: Hi, I'm Lis.

?: Hi, Lis.

Liz: First, when is your birthday, Doraemon?

?: September 3<sup>rd</sup>, 2112.

Liz: You mean the 22<sup>nd</sup> century?

?: Yes, I'm a robot cat.

I have many cat friends.

Liz: Wow!

?: Mie-chan is my good friend.

She's so cute!

Liz: You speak Japanese, English,  
and a cat language.

?: Yes, I sometimes eat a special food,  
*Honyaku Konnyaku.*

So I can speak English now.

Liz: Great!

While-Listening

- ・学習者用デジタル教科書を用いて、生徒一人一人が、個別の理解度に応じて、自ら必要な回数、スピード等を判断し、学習を進める。また、端末を自宅へ持ち帰り、「リスニング」の家庭学習を行う。
- ・教室ではイヤフォンの使用が望ましい。(全国学調で使用したものや教材としての購入)



※単元テストや定期テストの際に聞き取らせる回数を「1回」のみとする。本番は1回。日常生活で英語を聞き取るのは、通常一回のみ。一度しか聞くことができないような条件下であっても、正確に情報を聞き取ることができるような練習が必要。より実践的なリスニング指導を行う。

Post-Listening



- ・「答え合わせ」は、「やり取り」で行う。「話すこと」と「聞くこと」の領域を統合した言語活動。
- ・リスニングで理解した内容を、絵や写真を使って友達に伝えるなどの活動につなげ、単なる聞くだけの活動にとどめない。(表現する活動を意識させながら、聞き取らせる。)

**単元を通じた「聞くこと」及び「話すこと[やり取り]」の指導と評価**

**PROGRAM9 A Trip to Finland  
(Sunshine English Course 1 pp.103-111)**

《単元ゴールの言語活動》

A L T の冬休みの思い出について、必要な情報を聞き取ったり話の概要を捉えたりする。【聞くこと】  
自分自身の冬休みの思い出について、A L T の先生に紹介する。【話すこと [発表]】

《単元デザイン》

時	○学習活動
1	○単元の見直しを持つ。 ○小学校の学習を思い出す。 Junior Sunshine 6 Lesson 6 My Summer Vacation ○生徒同士で伝えあう。
2	○一般動詞（規則動詞）の過去形を使って、週末にしたことについて伝え合う。 Scenes1/Interact
3	○一般動詞（不規則動詞）の過去形を使って、週末にしたことについて伝え合う。 Scenes2/Interact
4	○一般動詞（規則動詞・不規則動詞）の過去形の疑問文や否定文を使って、週末にしたことについて伝え合う。 Scenes3/Interact
5	○美希、ダニエル、健のフィンランド旅行についての対話を聞いて、内容を理解する。 ○美希になったつもりで、語句や写真、絵を参考に、フィンランド旅行の思い出を紹介する。 Think1/Retell
6	○美希、ダニエル、健のフィンランド旅行についての対話を聞いて、内容を理解する。 ○美希になったつもりで、語句や写真、絵を参考に、フィンランド旅行の思い出を紹介する。 Think2/Retell
7	○美希、ダニエル、健のフィンランド旅行についての対話を聞いて、内容を理解する。 ○美希になったつもりで、語句や写真、絵を参考に、フィンランド旅行の思い出を紹介する。 Think3/Retell
8	○冬休みの思い出について、A L T の先生に紹介するための準備と練習を行う。
9	○冬休みの思い出について、A L T の先生に紹介するための準備と練習を行う。
10	○冬休みの思い出について、A L T の先生に紹介する。（パフォーマンステスト）
後日	○単元（期末）テスト：A L T による旅行の思い出についての話を聞き、概要を聞き取る。

ある程度のもともった分量の英文を聞く。2年生や3年生では社会的な話題のものも聞かせる。2年 PROGRAM7, 8 の Think3 等

《本時の展開（例）》

第5時/10時間中（教科書106ページ）

	○学習活動
	0 2分前学習(Word Input)
導入	1 Greeting & Small Talk ・先週末のことについてやり取りする。 ・教師と生徒のやり取りから、生徒同士のやり取りへつなげる。 ・中間振り返りの後、ペアを入れ替えて再度行う。 2 Today's Goal 美希になりきって、フィンランド旅行の思い出を紹介しよう！
展開	3 写真や地図を使って、教師と生徒でやり取りをする。[Pre-Listening]
	4 美希、ダニエル、健のフィンランド旅行についての対話を聞き、対話の概要を聞き取る。[While-Listening]
	5 美希、ダニエル、健のフィンランド旅行についての対話を聞き、より詳しい情報を聞き取る。[While-Listening]
	6 各自の端末で、学習者用デジタル教科書を用いて、美希、ダニエル、健のフィンランド旅行についての対話を聞き、より詳しい情報を聞き取る。[While-Listening]
	7 スクリプトを見ながら、再度聞く。音声変化について確認する。
	8 音読練習（シャドウイング、個別、全体）
終末	9 ペアで、写真や図を使いながら、美希のフィンランド旅行について伝え合う。[Post-Listening]
	10 振り返り 家庭学習=106ページの音読と録音

中心テーマについて

フィンランドについて詳しく

サウナについて詳しく

☆リスニング・スクリプト（デジタル教科書に入っている）を利用して音声と文字の一致について確認する。【知識】

☆教科書「発音クリニック」を活用し、英語の音声変化（連結、脱落、同化）について確認する。

【技能】

② 読むこと	「長文の概要や要点を読み取ること」「読んだ内容について自分の意見や考えを表現すること」改善のための授業アイデア例
	◎学習指導要領目標 (2) 読むこと イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。
	○学習指導要領内容 [思考力, 判断力, 表現力等] (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。
	○学習指導要領言語活動の例 ウ 読むこと (1) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。
	(単元名) PROGRAM 4 High-Tech Nature (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂) Think を活用し目的意識をもった読む活動を展開する。

### Pre-Reading

- ・生徒とのやり取りを通じて、キーワードとなる語彙や既習の表現に触れさせるとともに、話題を身近に感じさせる。
- ・本文で取り上げられているテクノロジーについて、Native Speaker (英語を母語とする話者) 向けに解説された動画を見せる。
- ・今回の話題はどんなテクノロジーについてなのか、周囲の生徒と予想させる。

#### ▼Think2 導入使用動画

BBC Science

"How a kingfisher helped reshape Japan's bullet train"

<https://www.bbc.com/news/av/science-environment-47673287>

#### ▼Think1

"Japanese Mango Yogurt has crazy non-stick lid!"

<https://www.youtube.com/watch?v=GOHRnQH7PmE>

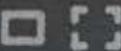
#### ▼Think3

"Insect-sized robot takes flight: RoboBee X-Wing"

<https://www.youtube.com/watch?v=loHzoeFP9Io>



1:35 / 3:40



### -Dialogue Introduction- Think 2

Teacher: There are many kinds of birds in the world, so I'll give you some quiz today. Can you say this bird's name?

Students: Suzume!

Teacher: That's right! It's a sparrow in English. How about this one?

Students: Shimaenaga!

Teacher: Yes!! I love them because they are so cute! However, my favorite bird is another one. Do you know this bird?

Students: Kawasemi?

Teacher: Excellent! Kawasemi is Kingfisher in English. I think it's the most beautiful bird in the world. And I found a movie of kingfishers. It helped a Japanese company. How did they do?

Let's watch and check!

### While-Reading

- ・読み取り時間を2分で設定し、与えられた Reading Point に沿って Think 本文の要点を捉える。
  - Q1. ジャックとエミリーは何を見ながら話している？
  - Q2. 昔、新幹線にはどんな問題があった？
  - Q3. 新幹線のエンジニアは、何をモデルにしてその問題を解決した？
- ・隣同士ペアで読み取った情報を共有させ、全体で答えを確認する。

### Post Reading

- ・Think 1～3 について授業で取り扱った後に実施する。
- ・Think で読み取ったバイオミクリーにかかわる 3 つの題材のうち、最も興味を持ったアイデアや役に立つと考えられる技術とその理由について、英文で書かせる。

#### ▼生徒の作文例（原文ママ）

I think bee robot is the most interesting of the three because bee robot can search and rescue.

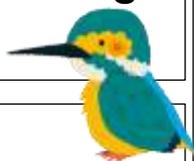
Also helicopter can't fly narrow space but Bee robot can fly narrow space.

I think bee robots is the most important of the three.

I have two reasons.

First, Bee robots is able fly in the sky.

Second, Bee robots can go into narrow spaces.



#### <評価のポイント>

- ・自分の考えの根拠となる部分を参照できているか
- ・それに対する自分の考えや思いを書くことができているか

I think the yogurt lid is the most interesting of the three.

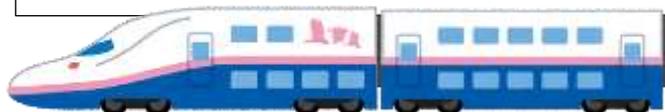
I have two reasons.

First, yogurt doesn't stick to lid. It's great.

Second, people can get new ideas from nature. It's amazing.

I think the Kingfisher and the Shinkansen is the most interesting of the three.

Because, a shinkansen engineer got an idea from it. The kingfisher can dive in to water with out a splash. From the instinct of the kingfisher, the engineer solved a problem.



### Program5 Work Experience

文章構成や表現に注目しながら英文を読み、それを参考に自分の体験を伝える活動

- ・ Think で職場体験にかかわる 3 つの英文を読む。  
(文章構成に着目する。文章の結論としてどのような言葉や表現が使えるか考える。)
- ・ これまでの自分の体験や職場体験について作文にする。
- ・ お互いに読みあい、より分かりやすく、より魅力的な文にするためのアドバイスをする。

#### ▼生徒の作文例

**I played with friend yesterday. We went to friend's house. We enjoyed *nanjamonja*. It was very fun. I want to play again.  
I felt playing with friend is important. It made me smile.**

**We had a school festival. I am in the school band. We appeared on the stage. I had a soli. I felt very nervous. My club members spoke to me. I was relieved to hear the word. I think it was the best stage. I felt sad because it was the last stage with this member. I cried.  
I learned the joy of working hard with friends.**

### Program6 Live Life in True Harmony

概要を捉えながら英文を読み、自分が調べた情報や意見を加えて再構成する

- ・ Think の人権問題について取り扱った英文を読む
- ・ 本文にでてきた 3 人の人物について情報を集め、自分の考えや思いも入れながら文章にする

#### ▼生徒の作文例

**King Jr. fought for black person's civil rights. He made a speech and changed the world. I think he was a great leader.  
He was murdered and 39 years old then. Stevie was touched his heart to this event, so he wrote Happy Birthday 1979.**

**Stevie Wonder is known as a great singer-song writer. He won a lot of honors including Grammy Awards.  
He cannot see eyes but kept singing as a musician. I learned the importance of not giving up.**

◆PROGRAM4 High-Tech Nature

(Sunshine English Course 2 pp.49-57)

《单元デザイン》

時	○学習活動
1	○単元の見直しを持つ ○比較級を使って、いろいろなキャラクターの年齢や身長を比べて紹介する。 Scenes1 / Interact
2	○最上級を使って、日本や世界の川、山、地形を比較して紹介する。 Scenes2 / Interact
3	○同格の as を使って、同じくらい面白いと思う作品や教科を紹介する。 Scenes3 / Interact
4	○ハスの葉とヨーグルトのふたについての対話を読んで、内容を理解する。 Think1
5	○カワセミと新幹線についての対話を読んで、内容を理解する。 Think2
6	○ハチロボットについての説明文を読んで、内容を理解する。 Think3
7	○Think 1～3 で読んだ本文の内容について、どのアイデアや技術がもっとも面白い、または役に立つと思ったか、理由を含めて自分の考えを書く。

◆AI を活用した教材作成 ～長文問題～

岩手県でも生徒用の AI 型ドリルが採用されるなど、AI の存在はより身近になってきました。私たち教員の授業やテスト問題の作成にも生成 AI を活用できることをご存じですか？今回はそんな活用法の一つとして、長文問題の作成に使える技をご紹介します。

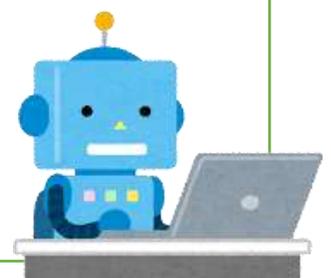
▼長文問題作成の手順

- ① 文章のテーマ、形態、語彙の難易度、語数を指定して、AI に文章の生成を指示する  
 “Create a dialogue about street food in 200 words at CEFR A1.”  
 “Create a passage about Dr. Martin Luther King, Jr. in 150 words at CEFR A1.”
- ② その文章から 5 問の選択問題を作るように指示する  
 “Create five multiple-choice questions for the above passage.”
- ③ 情報のソースや事実確認をおこなったうえで、生徒の実情に合わせた文章に調整する

\* その他の小技

- ・教科書と似た題材で文を作る  
 “Tell me some examples of high-tech nature products.”
- ・次の文を要約する  
 “Summarize the following sentences in 50 words at CEFR A1.”

定期テストだけでなく、読むことのパフォーマンステストにも初見の文章として使えるかと思います。たくさんの英文に触れさせるために、AI の手も借りてみませんか？



③ 話すこと「やり取り」	「生徒の興味・関心にあった話題を即興で伝え合う」改善のための授業アイデア例
	<p>◎学習指導要領目標 (1) 話すこと [やり取り]</p> <p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>○学習指導要領内容・言語活動の例 エ 話すこと [やり取り]</p> <p>(ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。</p> <p>(イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。</p> <p>(単元名) PROGRAM6 “The Way to School” (SUNSHINE ENGLISH COURSE1 開隆堂) Scenes 他各 PROGRAM の Scenes や Think でも指導することも可</p>

### Pre-Talking (Small Talk)

- ・話題のきっかけとなる画像や動画を見せて興味や関心を引き出す。
- ・教師から提示したものについて全体へ質問を投げかける。
- ・数名の生徒に答えさせ、会話を続ける。
- ・最初の質問が長いときは文字でも示す。

**Teacher**

**Student**

Look at this picture. Do you know this girl?

No, I don't. Who is she?

She is Marcie.

Marcie? I don't know.

She is a character of Peanuts.

Peanuts? What is it?

It's famous for Snoopy. Do you know him?

### Examples of other small talks

PROGRAMs-Scenes and “what to talk about”

- ・ P2-S1 “Do you eat snack?”
- ・ P2-S2 “Do you climb Mt. Iwate?”
- ・ P3-S1 “Can you make sushi?”
- ・ P3-S2 “Can you play sports?”
- ・ P4-S1 “What’s this? Quiz”
- ・ P4-S2 “Do you have a robot in your house?”
- ・ P5-S1 “Do you make lunch?”
- ・ P5-S2 “Do you make breakfast?”
- ・ P6-S2 “Do you watch TV or You-tube?”
- ・ P7-S1 “Do you go to a restaurant?”
- ・ P9-S1~3 Did you ~ yesterday? & What/When/Where/Why did you~?

※基本的には Yes/No questions で会話を始め、その後 short answer questions でつなぎ続けていく。

### Points for Pre-Talking

- ・話題はなるべく各 Scenes の内容につながるものでやり取りを行うことでレッスンに一貫性を持たせ、内容とターゲットセンテンス両面の定着を図る。
- ・Scenes の内容によっては実際の言語の使用場面やそこでの表現の機能をも導入しながら Small Talk を行う。
- ・既習事項である疑問文を多く使わせて、その場で考えて質問することができる技能を高める。
- ・話す話題によっては3文ライティングに結び付けてノートやワークシートに書いてまとめる。

### While-Talking

- ・本文導入は初見でアミとベンのやり取りを読んでみることから始める。
- ・動画を見せて、実際の英語らしい話し方をリスニングインプットする。
- ・リピーティングを行い英語特有の言い方に意識を向けながら発話練習をする。
- ・ペアワークも何度か行ってある程度流ちょうに話せるようになったところで、本文の単語を入れ替えて生徒自身が考えた内容でやり取りを行う。
- ・状況に応じて、質問を付け加えたり、リアクションしたりするなどして、オリジナルのやり取りを続けて楽しむ。

### Post-Talking

- ・Small Talk と Scenes 本文練習の後で、まとめとして本時の内容の話題で再度行う。
- ・可能であれば別の内容 (e. g. 好きな映画が話題の時は別の好きな映画を選ぶ等) でやり取りを行いたい。
- ・教科書の右側にある “Speak & Write” を使い、話題が同じだが別の流れでさらにやり取りを行いたい。
- ・授業のまとめとして、本時に行ったやり取りの内容をテーマにしてまとまりのある英文を作成させる。文と文のつながりを大切にしたいときや、生徒の状況に応じてフォーマットを提示することも有効である。

### Extra: やり取りを続けるための reactions 増強

- ・やり取りが円滑にそして楽しく進むために reactions (リアクション) が必要不可欠であるため、新出語句練習の際に Reaction Time を作っている。
- ・ワークブックについてくる単語帳を使用し、新出語句の一斉練習後にペアワークで一人が例文を読みあげ、もう一人がそれに対して reaction をする。(e. g. 1)
- ・様々な場面設定での例文が豊富なため、その状況に応じて即興的に reaction をする必要がある。
- ・例文によっては、教科書にはない reaction 例も載っており参考となる。(e. g. 2) また、例文の単語を入れ替えるだけでお互いについて伝え合う言語活動となる。(e. g. 3)
- ・内容によってはそのままやり取りを続けることもできる。

### Further Talking (ICT 活用)

- ・3 学年の Scenes は場面設定が様々であることから、タブレットを使用し、扱う場面に関わるウェブサイトアクセスさせ実際に自分事として思考・判断しながらやり取りする活動を組み込むことができる。
- ・Scenes 以外にも Think や Interact の内容につなげてさらに情報を検索させたり、自分にとって身近な事に結び付けてアウトプットさせたりする活動を行う。

### Scenes テキスト原文

Ami

Ben

This is my friend Paul.

Oh, I know him.

He is Sue's brother.

Oh, Sue! I like her.

### Scenes テキストを活用した生徒のやり取り

Ami

Ben

This is my favorite person.

Oh? I don't know her.

She is Ikura.

Oh, Ikura? What does she do?

She is a singer.

Is she a member of YO...

Yes!

Student A

Student B

e.g.1 Takashi is nice. I like him.

Really? I like Yosuke.

e.g.2 That's not a chair.

Oops!

e.g.3 My little brother is just like a little monster.

Wow. My big sister is just like a big monster.

### Example topics of further talks

- ・P4-S2 最近買ったもの (お気に入りのもの)
  - ・P4-I2 盛岡の伝統・文化・名産
  - ・P5-S2 ロンドン動物園で行きたいエリアとそこで見たい動物 (Simple Wikipedia 活用)
  - ・P5-S3 盛岡で上映している映画
  - ・R2 有名な motivational quotes
- ※上記のウェブサイトはできる限り英語のものを使用する。

<b>④</b> <b>話すこと</b> <b>(発表)</b>	<b>「テーマに沿ってスピーチをする」改善のための授業アイデア例【リテリング】</b>
	◎学習指導要領 <b>目標</b> (4) 話すこと (発表) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ○学習指導要領 <b>内容・言語活動の例</b> オ 話すこと (発表) (ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。 (イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。
	(単元名) PROGRAM 5 The Junior Safety Patrol PROGRAM 6 The Way to School PROGRAM 7 Research on Australia (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂)

発表力の向上を目指した取り組みとしてリテリングを取り上げ、次の3つの段階を踏んだ実践を推奨する。

- ①リプロダクション = テキストをほぼそのまま再生
- ②リテリング = テキストを「言い換え」や「要約」
- ③ショート・プレゼンテーション  
=要約に「新情報」や「考察」を追加

### Scenes での実践

- ①音読練習を繰り返し、内容を「暗唱」して対話する。…①
- ②登場人物について説明する。…②
  - ・教師がモデルを示す。
  - ・ペア同士で教科書のイラストを使い、登場人物について説明する。
  - ・うまくできた数名に前で発表させてみる。

PROGRAM5 Scenes 1~2 ~テキスト原文~ Sho: Oh, this is good. Sue: Yes. My grandmother makes lunch for me. Sho: She cooks very well. Sue: Thanks. But she doesn't make breakfast. Sho: Does your grandfather make breakfast? Sue: Yes, he does. He makes onigiri every morning. Sho: What do you do for your family? ~生徒のリテリング~ <b>Sue's grandmother makes lunch every day. Her grandfather makes breakfast. He makes onigiri every morning. Sue doesn't do anything for her family.</b>
--

### Think での実践

- ①内容理解の後、徹底して音読練習をし、英文をインプットし正しく再生する。…①
  - ・正確な再生からスピードアップへ  
 リポートペーパー 個人練習 リードアンドルックアップ  
 速読練習 1分間速読

- ②テキストの内容について説明する。…②
  - ・ペア同士でリテリングし、発話した語数を数える。ワードカウンターシートを使用し、語数を記録する。

~生徒のリテリング~ PROGRAM5 Think2  
**This is a picture of the Junior Safety Patrol. This is Daniel's cousin, Jenny. She watches the students on the street. She is a member of the Junior Safety Patrol. She enjoys her job, and she is proud of it too.**

- ③テキストの内容について新情報や自分の感想や考察などを加えてリテリングする。…③
  - ・タブレットを使い、テキストの内容について調べ、新しく知った情報を追加する。
  - ・自分の気持ちや考え、聞き手への呼びかけなどを追加する。
  - ・アイコンタクトやジェスチャー、声量などを工夫する。

～生徒のショートプレゼンテーション～PROGRAM6 Think1~2  
**This is Jackson. He lives in Kenya. He is eleven years old. Every morning he runs and walks 15 kilometers to school with his sister. His sister is eight years old. It takes two hours. They walk across the savanna. The savanna is amazing but dangerous. Elephants sometimes attack school children. Their parents pray for their safety. Why does Jackson go to school? Because he has a dream. He wants to be a pilot.** 映画「世界の果ての通学路」を調べ、妹が8歳であること、ジャクソンの夢がパイロットであることを追加。

～生徒のショートプレゼンテーション～ PROGRAM7 Think1  
**This is Australia. Australia has 20 World Heritage Sites. This is the Opera House. It's so beautiful. This is the Great Barrier Reef. It's 327,800 km<sup>2</sup> big and 2,600 km long. It's so big and long! There are many unique animals in Australia. Kangaroos and koalas are so cute. The emu is the second largest bird in the world. Let's go to Australia. Simple Wikipedia でオーストラリアの世界遺産の数や、グレートバリアリーフの大きさ、エミューが世界で2番目に大きな鳥であることなどの新情報を追加。とても美しいなどの感想も追加。**

<ワードカウンターシート>

**Word Counter**

Class No. Name  
 相手の話した単語の数を指またはペン先で蛇行型になぞっていく。  
 間違いや言い換えも語数に入る。  
 語数を相手に伝える。

1	30	31	60	61	90	91	120
2	29	32	59	62	89	92	119
3	28	33	58	63	88	93	118
4	27	34	57	64	87	94	117
5	26	35	56	65	86	95	116
6	25	36	55	66	85	96	115
7	24	37	54	67	84	97	114
8	23	38	53	68	83	98	113
9	22	39	52	69	82	99	112
10	21	40	51	70	81	100	111
11	20	41	50	71	80	101	110
12	19	42	49	72	79	102	109
13	18	43	48	73	78	103	108
14	17	44	47	74	77	104	107
15	16	45	46	75	76	105	106

目標語数 WPM 中1: 2.0~5.0語 中2: 4.0~6.0語 中3: 5.0~7.0語

自分の記録

	date	ページ	語数		date	ページ	語数
1	/			11	/		
2	/			12	/		
3	/			13	/		
4	/			14	/		
5	/			15	/		
6	/			16	/		
7	/			17	/		
8	/			18	/		
9	/			19	/		
10	/			20	/		

PROGRAM 7 Research on Australia

《单元ゴール》盛岡の魅力について ALT の家族に紹介しよう【話すこと [発表]】  
 《单元デザイン》

時	学習活動	
1	○There is(are)~を使って人やものの存在について伝えあう。	
2	○How~?を使ってお互いの通学方法を伝えあう。	
3	○オーストラリアの世界遺産について理解し、相手に説明する。	
4	○オーストラリアのクリスマスについて理解し、相手に説明する。	
5	○オーストラリアについてリテリングする。	
6	○オーストラリアの魅力についてプレゼンする。	
7	○文房具の場所や交通手段について伝えあう。	プレゼン準備・練習
8	○文法事項を確認する。英語のしくみ ○話の組み立て方を考える。Steps3	
9	○英語でやりとりする。Steps4 ○疑問詞の使い方を確認する。WordWeb5	
10	○ALTの家族に盛岡の魅力を紹介プレゼン(録画) ○单元を振り返り自己評価をする。	

《本時の展開》第6時/10時間

	学習活動
導	1 Small Talk 教師と英語でやりとりする。
入	2 Review 音読の復習をする 3 Today's Goal 今日の学習課題を確認する。
展	オーストラリアの魅力についてプレゼンしよう 4 Retelling ・オーストラリアについて調べ、新しい情報を1つ以上付け加える。(タブレット使用) ・個人で練習した後ペアでリテリングする。 ・Word Counter を使ってお互いに話した語数をカウントする。
開	5 Presentation in Groups ・グループでリテリングの発表をする。 ・発表が終わったら聞き手は感想やアドバイスを話す。 ・班の代表者が学級の前で発表する。
終末	6 Reflection 本時の振り返りを記入する。

<参考>

上山晋平「英語リテリング&ショート・プレゼンテーション指導ガイドブック」(明治図書)

⑤ 書く こと	「まとまりのある文章を書くこと」「適切な表現を用いて英語を書くこと」改善のための授業アイデア例
	◎学習指導要領目標 (1) 書くこと ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ○学習指導要領内容・言語活動の例 カ 書くこと (ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。 (エ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。
	(単元名) PROGRAM 6 Live Life in True Harmony (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂) 各 PROGRAM の Scenes や Think で指導することも可

## Picture's Writing

絵や写真をもとに自分でまとまりのある文章を書く

### ① Scenes での実践

#### Pre-Writing

本時の学習に入る前に、自分の予備知識を駆使しながら学習内容の見通しを立て、英作文をする。

- 本時の場面や教材に関わる写真を数枚、順番に示し、生徒に「一貫性のある文」という条件を与えてまとまりのある文章を書かせる。
- 本時の学ぶ場面や目的、状況を自分で考え、推測する時間にできる。
- ペアやグループで自分の考えたことを発表させ相互交流を図る。

#### 【記述例】(原文ママ)

One day, an Amerikan family went to Japan. A boy like Japanese history. So they went to Kyoto. There is a Kinkakuji in Kyoto. A boy likes it. He was very happy because he could see Kinkakuji.

#### 【Program 6 Scenes 2 本文】

- Ben : Kinkakuji Temple looks so nice!  
Sue : It was built by Ashikaga Yoshimitsu.  
Ben : Was Ginkakuji Temple built by him too?  
Sue : No. It was built by Ashikaga Yoshimasa.



#### Post-Writing

本時学習した表現を使いながら、再度同じ写真でまとまりのある文章を書く活動を行う。

- 学習前に行った文章を参考にしながら本時習った表現を取り入れて英作文する。もしくは、新しく自分で英作文にチャレンジしたい生徒には挑戦させる。
- 本日学習した表現を活用するために行う。
- 文章のどこかに、自分の気持ちや考えを1文以上入れることを条件とする。

#### 【記述例】(原文ママ)

An American family went to a trip. A boy like Japanese history. They visited Kyoto. They went to Kinkakuji temple. It was built by Ashikaga Yoshimitsu. It was good. Next, they ate a lunch. After lunch, they went to Kinkakuji temple again. A boy was so happy. I want to go to a trip with them.

② Think での実践 (Think 3)

**Pre-Writing**

- 写真をもとにスティービー・ワンダーに何が起き、新出のネルソン・マンデラとどのような関係かを推測する。
- 前時までの既習した表現や知識をもと Think 1、2 の内容から逸脱した内容にならないように注意させる。
- 辞書などを用いながら、写真から自分で情報を読み取り、自分で Think の内容がどのように展開していくのかを考える時間とする。

**【記述例】**

① Stevie Wonder got an award. So he went to his mother country "South Africa". And he decided to meet his friend Nelson Mandela, but he was in a prison. So Stevie went to prison to see his friend.

② When Stevie got a trophy, he wanted to meet his friend. His name is Nelson Mandela. He is from South Africa. He is just person. But one day he was confined in a prison because he was black person. But he could come out.



**Post-Writing**

本時の最後の表現活動として、Think3 の内容について Pre-Writing の時と同じ 4 枚の写真を見ながら自分で英作文させる。

- 言語活動としてリーディングを十分に行わせる。発話しながら頭の中で内容がイメージできる程度まで読ませる。
- リーディング活動の後、教科書の Retell のページを参考にリテリングを行う。教科書の学習した単語だけでなく、Pre-Writing で行ったときに調べた単語なども使わせるよう促す。
- リテリングを行ったのち、話した内容について英作文をさせ最後の言語活動とする。
- 文章のどこかに、自分の気持ちや考えを 1 文以上入れることを条件とする。

**【記述例】**

① Stevie Wonder got an award. He dedicated it to Nelson Mandela. He was locked in jail for 27 years. After that he became the first black president in South Africa. When Stevie met him, he said "We can and must live life with true harmony." I think Stevie and Mandela could change the world.

② When Stevie got the award, he wanted to meet and dedicated his friend. His name is Nelson Mandela. He is the first black president of South Africa. One day, he was locked in jail. But he came out. Stevie respects Nelson Mandela. So Stevie dedicated the award. Today, Stevie's songs were sung millions of people in the world. I respect them because they have their belief. I want to have strong belief.

**単元を通じた「書くこと」の指導と評価**  
**PROGRAM6 Live Life in True Harmony**  
**(Sunshine English Course 2 pp.69-77)**

《単元のゴールの言語活動》

小学生にスティービー・ワンダーなどの偉人を分かりやすく紹介するミニポスターを作る。【書くこと】

《単元デザイン》

時	○学習活動
1	○単元の見通しを持つ。 ○過去分詞の形について変化形を理解し覚える。 ○洋楽について親しむ。
2	○身の回りにあるものについて受動態を使って表現する。 Scenes1, 2
3	○受動態を使ってクイズを作り交流する。 Scenes3
4	○お気に入りの音楽について、受動態を使ってまとまりのある文章を書く。 Scenes のまとめ/Interact
5	○スティービー・ワンダーについて英語で説明する。 Think1/Retell
6	○スティービー・ワンダーとキング牧師の関係について英語で説明する。 Think2/Retell
7	○スティービー・ワンダーとネルソン・マンデラの関係について英語で説明する。 Think3/Retell
8	○スティービー・ワンダーやキング牧師、ネルソン・マンデラについて小学生に分かりやすく紹介するための準備をする。
9	○スティービー・ワンダーやキング牧師、ネルソン・マンデラについて小学生に分かりやすく紹介するミニポスターを作る。
10	○単元のまとめ

《本時の展開 (Think 3)》  
 第7時/10 時間中 (教科書 p. 74)

	学習活動
前時 終末	○Pre-Writing 次時の内容に関わる写真について、まとまりのある文章を英作文する。
	学習活動
本時 導入	1 Greeting & Review ・ Think1, 2 の Reading ⇒Retell  2 Today' s Goal
展開	スティービー・ワンダーとネルソン・マンデラの関係について英語で説明する。  3 スティービー・ワンダーとネルソン・マンデラの関係についての英文を読み、概要を把握する。  4 スティービー・ワンダーとネルソン・マンデラの関係について理解しながら音読する。  5 スティービー・ワンダーとネルソン・マンデラの関係について教科書を見ずに、再読話する。
終末	○Post-Writing 6 Pre-Writing で使った写真を再度提示し、まとまりのある文章を書く。  7 Pre-Writing と Post-Writing の文章を比べ、振り返らせる。

## Ⅶ 研究のまとめ

各領域における授業改善のための実践提案を進めたことにより、次のような成果や課題も明らかとなった。

### 《提案1 聞くこと》

- ICT活用により、聞くことの量が増加した。
- 聞くことの「知識」だけでなく、「技能」面での指導の必要性を感じた。

### 《提案2 読むこと》

- 読むことの目的を明確にすることによって、文章内容を自分なりに理解しようとする姿勢が見られ、また、文中に使用されている表現から学ぼうとする意欲が高まった。
- 何に焦点を当てて読むか、明確にして授業を組み立てられたため、多様な読み方を体験させることができた。
- 本文から根拠となる文を参照することで精いっぱいの子供もいたため、自分自身の考えを表現できるよう継続して指導したい。

### 《提案3 話すこと [やり取り]》

- 教科書で扱う内容でも身近な話題からやり取りを始めることで、話すことへのモチベーションを保ちながらターゲットセンテンスの導入から練習へと言語活動の充実を図ることができた。
- やり取りをさらに継続するために、その場で即興で質問することや相手の発言へのコメントやリアクションのバリエーションを増強させたい。
- やり取りする内容が日常的で関心のある事柄を扱っていることから、同じテーマでまとまりのある英文の書く活動へとつなぎ、ライティングスキルの向上を図りたい。

### 《提案4 話すこと [発表]》

- 要約やパラフレーズする力が向上した。
- 自分の気持ちや感想を付け加えることができるようになってきた。
- 発話語数を数え、記録することで、生徒の意

欲喚起につながった。

- 発表する内容について、原稿を書き起こしてくる生徒や、新たな情報を調べて追加して次の発表に臨む生徒が出てきた。
  - 英語を話すことへの抵抗感が無くなった。
  - 十分にインプットするための時間確保が必要である。
  - 教科書をそのまま「読む」から脱却することができない生徒への指導が必要である。
  - 「正確さ」をどこまで求めるかが課題である。
- ### 《提案5 書くこと》
- まとまりのある文章を書く力が向上した。
  - 自分でストーリーを考えさせることにより想像力や思考力が向上できる。
  - 辞書を活用させることで語彙力が向上した。
  - 書く時間を十分に確保しなければならないため、他技能とのバランスを考える必要がある。
  - 教科書の本文から脱却できない生徒への指導。
  - 自分の気持ちや考えをスラスラと表現するために、十分な教材理解が必要。

また、諸調査結果の分析や授業改善の協議等を通して、改めて次の点の重要性を認識した。

- ①学習指導要領の内容を正しく理解すること。  
中学校英語科で育成すべき資質・能力を正しく捉えること。
- ②「言語活動」を通して資質・能力を育成する授業を引き続き構想すること。
- ③「知識及び技能」を実際のコミュニケーションにおいて活用し、「思考力・判断力・表現力等」を育成する授業を構想すること。

以上の点を踏まえて提案した、各領域における実践提案を参考に、各学年の授業改善が図られていくことを期待する。

結びに、本研究における実践例をもとに、諸調査や他教科等の学習、生活や社会において、今後も盛岡市の児童・生徒が、獲得した資質・能力を存分に発揮することができるよう、英語授業の一層の質の向上を目指していきたい。

【参考資料】

- ・ 中学校学習指導要領解説【外国語編】
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】
- ・ 令和5年度学校教育指導指針（岩手県教育委員会）
- ・ 令和5年度全国学力・学習状況調査調査解説資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- ・ 令和5年度全国学力・学習状況調査調査報告書・結果資料（文部科学省、国立教育政策研究所）
- ・ 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について（令和5年7月31日 岩手県教育委員会事務局学校教育室）
- ・ 令和5年度全国学力・学習状況調査教科調査分析資料
- ・ 令和4年度岩手県中学2年生英検 IBA 結果報告書（令和4年12月 岩手県教育委員会）
- ・ 令和5年度岩手県中学2年生英検 IBA 結果報告書（令和5年12月 岩手県教育委員会）
- ・ 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（平成29年 文部科学省）